

令和7年度 第1回 介護・医療地域連携推進会議

日時：令和7年7月18日(金)13:00～14:00

出席者：医療機関 I 医師、地域代表 H 氏、長崎市中央総合事務所 N 氏、法人代表 Y 氏、連携訪問看護事業所 K 氏、定期巡回事業所 T、S、C、E(書記)

○前回会議から利用された新規利用者(令和7年1月～)

1名(N様)、女性、ケアハウス入居者、3月からの利用。

連携先の訪問看護から依頼を受けて、安否確認含め排泄介助でターミナル対応。半寝たきり、トイレの希望あり。

短期利用しご逝去されサービス終了。住居施設が看取りを完全対応できないことも課題。

○利用人数：前年度の利用は10名/月だったが、現在は7、8名/月で推移している。

○終了した利用者

S様について

I 医師：93歳で頑固で拒否がある方。独居、寝たきり状態で犬もいて、床に糞が落ちて劣悪な環境であった。一旦ショートステイを利用してもらい、犬も息子様が引き取り、その間に環境を綺麗にしてもらった。自宅へ戻り、庭掃除も自分でできるようになった。定期巡回を利用することで、安否確認をしてもらい安心して過ごせたのではないかな。

C：訪問し拒否されるも、寂しさもあり、買い物で来たことを伝えるとお願いされ、コミュニケーション図りながら関係性を築いていった。結果的に元気になり、自身でも買い物に行かれることもあった。体調不良になった要因の一端として、訪問介護へ移行したことで訪問回数が減り、寂しさもあって体力が落ちていったのかとも思い、関わりが大事だと感じた。

T：体調が良くなり訪問介護へサービス移行したが、夏場の時期だけでもピンポイントで定期巡回を利用する方法もあると思う。昨日ケアマネからショートステイから入所へ切り替わり、看取りまで過ごされるかもと報告があった。

N様について

K 氏：定期巡回が入ることで、ご本人の様子を見守り、寄り添い、確認をしながらケアを行っていた。夕方になると訪問看護は業務が終了してしまうが、その後、夜になるにつれて不安に陥ってくる中で、ヘルパーの訪問があると、状態確認をもらい、訴えも聞いてもらうことでご本人はとても安心されたと思う。

T様について

K 氏：ストマの便破棄対応も以前、定期巡回の介護職員が実施していたこともあり、異常の発見や便をどうしていくか経験済みだった為、今回短期ではあったが、定期巡回の役割は出

来ていたと思う。

○定期巡回連絡会より

T：直近の外部定期巡回が8事業所あり、各事業所の地域性や併設建物によって外部利用と内部利用の利用者数に差がある。内部に多数訪問し、外部には出れない状況に対しては一概に良し悪しは言えない。当事業所は半々の利用。内部のケアハウスは入退所のサイクルが早い為、これからもアプローチが必要である。

・定期的に総会や研修を行っているが、ケアマネへの広報が上手く出来ていないのではないかと。定期巡回が浸透していない、理解を得ていないのではないかと思い、南部、中央、北部の各ケアマネ協議会へ参加させてもらい説明を行った。質疑応答の時間は設けることは出来なかったが、後から質問はあった。今年度はケアマネを呼んでアクションを起こそうと思っている。

○最近、定期巡回や訪問介護の相談があまりない。地域の独居の方が少なくなった、または施設に入られているのだろうか？

H氏：一人暮らしの方は多い。介護保険の話、ヘルパーの話をするが、どうにかなるさと他人事に思っ身近に捉えていない、同じ地域だからすぐ近くの施設に入れるという考えの方が多。

I医師：高齢独居の方はいて、その中で老々介護をしている世帯もある。まだ何とか生活が成り立っている状態。近い将来、ヘルパーが必要になってくる人が多い。

K氏：ケアマネへの説明も必要だが、地域の方に知ってもらうことについては、地域包括支援センターへの理解も必要ではないか。

Y氏：地域包括の役割としては、権利擁護(虐待)としての特性が強い。定期巡回が浸透しているかといえばまだだと思ふ為、アピールしてもいいのではないかと思ふ。

K氏：介護だけでなく、障害にも関わって欲しい。それぞれ分業になっていると感じる。

T：来月、連絡会がある為意見を出してみる。

N氏：市には定期巡回は話があがってこない。おそらく地域包括まで浸透していないと思ふ。市でも定期巡回を知らない人が多いのではないか。

T：昨年の定期巡回の実地指導でも、定期巡回が始まってから10年程で2回目の監査ではあったが、不慣れな方であった。

Y氏：行政も定期巡回が深く入り込んでいない。

N氏：まずはケアマネに定期巡回のことを広めていく事が先ではないかと思ふ。その中で困難事例を市役所へ報告してもらい、市へもアピールしていく事が必要ではないか。

Y氏：定期巡回の利用単位数が高いこともあり、ケアマネ自体が使わないと言っている。

K氏：訪問介護とは違い、短時間しかいられないが、定期巡回ならではのターミナル対応や安否確認、こまめな水分補給の重要性等、より密度の高い訪問を訪問看護としては求めている。

る。事業所としての考え方や運営の仕方はそれぞれ違うと思うが、プライエムの強みは何なのか、方向性を決めアピールすれば、頼みやすくなるのではないかと思う。

Y氏：プライエムとしての強みは同法人での連携だと思う。

K氏：医師の理解も大事。I医師との関わりが多いが、理解がある為非常にやりやすい。

I医師：定期巡回の利用については、ケアマネの考えに左右される。医療は訪問看護と連携、介護はケアマネと連携というところが多い。1年前に父がプライエムの定期巡回を利用したが、実際に活動を目の当たりにし重要性を知った。

Y氏：I医師がおられるのも強み。(同法人) 日見事業所も地域の医師がいらっしゃることに心強さを感じている。

H氏：地域の方は定期巡回を知らない。何かあれば医師が往診で来てくれると思っている。介護保険申請やヘルパーの話しをするが「迷惑がかかる」と思い病院に行く。しかし、家族は自宅では看病や介護は難しいと言われる方も現実にいる。定期巡回とはこういったサービスなのかと具体的な説明をする場を設ける広報の仕方も考えてみては。実際に利用してもらえば良かったと思う。鍵山団地には近くに施設がある、医師も近くにいるからと安心して。具体的な広報活動として、今度老人会の会長に話をする。

○次回、連携推進会議予定

日時：令和8年2月20日(金) 13:00～14:00

場所：プライエム横尾 第一別館地下会議室